

平成24年度社会貢献プロジェクト

環境マイスターの育成による地域環境教育の推進 および環境保全事業

藤川昌樹(システム情報系・教授)、吉野邦彦(同・教授)、村上暁信(同・准教授)
藤井さやか(同・准教授)、甲斐田直子(同・助教)、腰塚昭温(生命環境科学研究科・技術職員)

1. 事業の概要

本事業は、環境に対する正しい知識と技能を身につけ、地域社会において環境教育や環境保全の指導者となる市民を育成する事業である。つくば市の自然環境、文化・都市環境を習得テーマとし、地域特性の高い環境教育を行う。本事業により認定を受けた環境マイスターはつくば市やNPOが実施する各種事業の中核となって活躍し、市民の環境意識向上及び環境保全活動への積極的な参加に努める。

本プロジェクトでは、環境教育を実際に行なっている小中高の教員や環境行政に携わっている市職員、一般市民、各種NGO/NPOに対して、環境教育に必要な基礎的知識や情報、技術を継続的に習得してもらい、つくば市と相補的に効果的な環境教育・事業を展開することを目指している。今年度は都市環境をテーマとして事業を実施した。

2. 事業成果の概要

都市環境をテーマとし、基本となる都市・都市計画についての基礎知識を理解した上で、住宅から地域に至る様々なスケール、過去から現在・未来へと至る時系列上の変容、自然・社会的条件と都市の相互規定性、など都市環境に関する一般的、専門基礎的、かつ総合的知識を有した環境マイスターを育成することを目的とし、授業、野外実習等を実施した。

平成24年度の実施授業内容は、以下の通りである。

1)空からみるつくばの変遷: 吉野邦彦

(6/16(土) 於筑波大学3C棟110、104、谷田部緑が丘団地・農林団地、豊里の杜他)

2)つくば市の都市計画: 藤井さやか

(6/24(日) 於つくば市サイエンスインフォメーションセンター、桜ニュータウン他)

3)学園都市の緑と環境: 村上暁信

(7/7(土) 於理科系修士棟B107、つくばセンター広場、洞峰公園、赤塚公園他)

4)市民生活と環境政策: 甲斐田直子

(7/22(日)、於筑波大学3B棟202、産業技術総合研究所内サイエンススクエア他)

5)歴史的環境—真壁の町並みと建築: 藤川昌樹

(9/2(日): 於筑波大学理科系修士棟B107、真壁伝承館他)

本年度は合計26名が受講し、平成17年度に本事業を開始して以来の受講者はのべ207名になった。このうち、本年度は4名が、審査を経て環境マイスター1級を授与された。これまでに、環境マイスター1級から3級を授与された受講者は、のべ76名にのぼる。

本年度全5回の授業のすべてにおいて、教室内の講義に加え、野外における視察・実習が行われ、実践的なコースワークが実現した。

第1回では、まず講義で、環境の変化を知るのに新旧空中写真の比較が有効であることを、国土地理院・電子国土ポータルサイトを利用して理解を深めた。受講生の故郷の新旧航空写真の比較は好評だった。午後は市内の住宅地開発跡を視察し、その変容を理解した。

第2回は、つくば市の都市計画や課題を理解するため、「センター地区の活性化」「住宅地の将来を考える」の2つのテーマにつき、その背景や現状に関する講義の後、まちあるきを行い、観察結果につきディスカッションし、今後のまちづくりに関する意見発表を行った。

第3回は、公園緑地の歴史、地域の自然生態系についての説明の後、今日の公園や緑地空間の実情、利用に関する課題、地域コミュニティと管理の関係について議論が行われた。

第4回では、環境政策の社会経済分析の基本的概念を学ぶとともに、市民生活と環境の関わりを議論した。産業技術総合研究所内サイエンススクエアおよびメガソーラー施設等の見学を実施した。

第5回は、重要伝統的建造物群保存地区に選定された桜川市真壁町を対象地に講義・見学が行われた。歴史的街並みの保存制度、運用実態についての説明と共に、東日本大震災における被害や復興状況について議論が行われた。

以上の授業、野外視察・実習は、都市に関わる、自然科学、土木工学、社会科学、人文科学などの俯瞰的な内容と実地学修を含むとともに、各回においてレポートが課され、また最後には総括レポートの提出が求められる等、受講生にとっては厳しいながらも充実したものであったと思われる。

3. 地方自治体等との連携

本事業は、つくば市と筑波大学との連携事業であり、受講生のうち、一定の条件を満たし審査に合格した者は、その水準に照らして、環境マイスター1級から3級を授与される。本年度も、3月15日に本学学長室において授与式が行われ、赤平副学長からマイスター各級の証書が手交された。

環境マイスターの証書を授与された者は、つくば市主催の環境関連事業等において、アシスタントや専門ボランティアとして活躍することが期待されている。

4. 今後の展望

本事業は、平成17年度の開始からのべ207名の市民が受講し、環境マイスター1級から3級までの授与者ものべ76名にのぼっており、着実に成果を上げてきている。つくば市側の所管部局である環境生活部環境都市推進課も、環境マイスター授与者の活用方法について、積極的な検討を進めており、今後、当事業修了者が、つくば市における環境関連取り組みの推進役になるとともに、本事業が本学の環境教育の一翼を担うものとしてより発展することが期待される。

写真: 真壁町重要伝統的建造物群保存地区見学(右)、講義の様子(下左)、研究発表会の風景(下中央)、学長室における環境マイスター証書授与式(平成25年3月15日)(下右)。

